

【令和2年度第1回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録要旨】

- <検討事項> (1) 委員長・副委員長選出
 (2) 年間研修実施計画について
 (3) 検討会年間活動方針及び計画案について
 (4) 現任研修の新プログラムについて
 (5) 演習指導者の名簿公開について
- <開催日時> 令和2年5月15日（金曜日）から6月5日（金曜日）まで
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐ観点から、メーリングリスト上での意見交換による開催
- <委員> 佐藤委員、蛭川委員、藤田委員、堤委員、杉田委員、池田委員、藤井委員、中島委員、花形委員
 吉澤委員、北川委員
- <事務局> 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 森下 他5名

検討事項（1）委員長・副委員長選出	（資料）	1、2	（提案者）	事務局
<p>○検討会の委員長は、「資料2 東京都相談支援従事者研修検討会設置要綱」第5により、「検討会には委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。」となっている。資料1の委員名簿より、委員長の推薦をお願いしたい。</p> <p>○副委員長については、委員長から指名する。</p>				
<p>意見</p> <p>○杉田委員 他8名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学の佐藤教授を委員長に推薦する。 				
<p>決定</p> <p>佐藤委員が委員長に就任する。</p> <p>副委員長については、各研修検討チームリーダーが就任する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修検討チーム まある相談支援事業所 杉田泉氏 ・現任研修検討チーム マインドはちおうじ相談支援センター 中島美穂子氏 ・主任研修検討チーム 相談支援センターくらふと 吉澤浩一氏 ・演習指導者養成研修検討チーム 地域生活支援センター 花形朗子氏 				

検討事項（2）年間研修実施計画について	（資料）	4	（提案者）	事務局
<p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を受け、法定研修については、講義は動画配信、演習は3密を避けるため、1教室に入るグループ数や、グループの構成人数を調整して実施する予定</p>				
<p>意見</p> <p>【研修実施全般について】</p> <p>○杉田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3密を避ける会場設営を考え、演習は教室のグループ数を少なくする方向でいくと、日程数を増やすことになるのか、定員を減らすのか、現段階はどのように考えているか。 ・現任研修以外の実実施計画は、概ね資料のとおりでよい。緊急事態宣言が解除されるだろうとは言え、「withコロナを数年は覚悟」と言われる中で、動画配信での講義も致し方ない。法定研修全体を通しての連動性・ストーリー性・つながることの大切さを考えると、ライブ感は大事である。 <p>○中島委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修の定員を予定どおり700名規模で行った場合、会場確保やファシリテーター（以下「FT」という。）の人数確保、当事者サポーター（以下「サポーター」という。）の確保を考えると、致し方ないが、定員人数の見直しが必要ではないか。 <p>○花形委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密度の軽減を考えると多くの会場確保が必要になる。定員を減らし、優先順位（事業所立ち上げが決まっている等）を考慮し、受講者を選定するのは仕方がない。対象者を減らすことで、サポーターの協力人数減にもつながるのではないか。 <p>○北川委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を開催する側として、何を根拠として会場や人数、開催方法を限定するか、明確にする必要がある。 ・東京都の研修開催の基準はあるか。これから作成する予定はあるか。 				

○佐藤委員

- ・第4四半期が新型コロナウイルス感染症の再燃という予測やワクチンが開発されるまでは複数年対応などと言われている。新しい形の研修形式が求められているが、今年度の研修で実施するものを、すべて録画することは可能か。（すでに録画形式で行われているのか？）例えば、次年度は再燃などにより、対面形式から急遽、（撮っておいた）動画を配信する形式に切り替えることで研修の担保、備えが可能となる。演習に関しては、WEB会議システムのアプリを使う方策があるが、受講する側にもオンライン環境を整えてもらわなければならないという課題がある。

○藤田委員

- ・定員規模の見直しが必要である。しかし、日程の追加、会場の確保ができないこともあるので、WEB会議システムの活用も有効と感じる。それぞれのネットワーク環境の問題もあるので、会場に集まって行う日程、ネットワークのみで行う日程など開催方法の構築も必要ではないか。

○事務局

- ・研修実施方法は現在調整中。年度の後半は、当初の日程（初任者研修9日程）だけでスケジュールは目一杯なので、これ以上日程を増やすことは難しい。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、演習での「3密」状況を回避するため各会場の広さに応じた定員について検討している。
- ・開催判断の基準については、はっきりしたものは現在のところない。研修の規模や開催の有無は、事務局だけではなく、東京都庁内関係部署と調整の上で確定している。法定研修であることから、事業所運営への配慮、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止、研修受講ニーズ(今年度だけの受講定員だけではなく、来年度の用意すべき受講定員の規模、つまり今年度の研修を中止・縮小した場合に次年度は何名までカバーしなければならないか等)を踏まえて、検討している。また、現任研修のように国の対応策も判断の材料となっている。

【講義の動画配信について】

○花形委員

- ・本来なら受講確認票をもって受講を確認しているが、動画配信となるとどのように確認するのか。映画を最後まで見終わらないと答えがわからないような「豆テスト」のようなものがあつたら、真面目に取り組んでもらえるだろうかと考えている。また、配信期間は講義実施日時のみとするのか。国研修は動画をアップしているが、誰でも観られる形になると転用など権限がどこまでになるのか気になる。

○蛭川委員

- ・動画配信で「豆テスト」を行うのは面白い。

○事務局

- ・現在、動画配信は、業者選定を含め、検討中。事務局の配信のイメージは、配信期間は、複数日を設け、限定されたのみが閲覧できるような方法を考えている。受講確認については、従来の方法に加え、さらに工夫が必要と考えている。

【初任者研修当事者サポーターについて】

○中島委員

- ・3密を避け定員を減らす可能性もある中で、サポーターの参加はいかがか。本人主体の意義を持ち帰る研修は効果があるので、参加継続をお願いしたい。

○堤委員

- ・障害当事者の場合は私たちまとめ役（※）も含め、新型コロナウイルス感染症に関しては、ほとんどが「ハイリスク該当者」になる。講義は「動画配信」という形が取れるが、演習に関しては、どのような関わり方が可能なのか、演習時期の感染状況とも関係してくるが、工夫が必要になってくる。

※まとめ役：初任者研修でのファシリテーターの名称

- ・厚労省で審議した「合理的配慮」は、演習の後半について地元での受講を可能にするなどの意見があつたが、演習前半の2日間も、「3密を避ける」のと同時に、「長距離の移動のリスク」をどう考えるかの議論も必要になってくる。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止も意識した上での開催方法（当事者の関わりも含めて）を考える必要がある。

○北川委員

- ・現在、サポーターの参加は、どのように考えているか。検討会で考える必要があるか。

○花形委員

- ・まとめ役がグループの状況を見て「ここでサポーターさんに意見がほしい」と思った時、教室進行に投げかけて教室全体へのメッセージとして意見をもらうという形は難しいか。各グループにサポーターをつけるのが一番であるが、人数確保を考えると2グループに1名、又は教室ごとにアドバイザーとして配置できれば、人数を減らすことができるのではないかと。

○蛭川委員

- ・障害者が感染した場合、入院先や在宅で経過観察するにも家族やヘルパーの心理的負担を考えると、在宅も厳しい等の不安を抱えている。重症化せずに入院する場合でも、入院中の+αのケアや体力低下などを考えると、落とした体力（精神力）を回復するのに時間がかかる人も少なくないのではないかと。
- ・そう考えると、当事者サポーターの方々にはハイリスクである。ハイリスクのハイは自身の重症化だけでなく、周りへの影響が強いという意味もある。募集すれば、協力を申し出てくれる方もいると思うが、影響を実感している当事者は協力したくてもできないという状況にもなるのではないかと。
- ・今年だけは「サポーターの参加がない演習」にするというのもひとつの方法ではないか。治療薬ができてからサポーター復帰という流れが、依頼する方もされる方もお互い安心して取り組めると思われる。
- ・当事者のまとめ役もよくよくリスクを考えた上での協力になると思うので、例年より少なくなる可能性がある。
- ・教室全体へのメッセージとして意見をもらうことは、人数が減るのでよい提案であるが、慣れていないサポーターは難しい。
- ・万が一サポーターが感染した場合は、治療から寛解までのサポートができる者が必要

○藤田委員

- ・安全に参加継続していただくためにネットワークを使う方法を検討してほしい。準備は大変であるが、障害当事者だけでなく、全受講者が安心して参加することができる。

○佐藤委員

- ・サポーターに感染リスクを負担して参加していただくことは本来の目的から趣旨に反しているが、これまでの東京都の特色という意味で、参加していただくことを前提に、対面型にこだわらない形での演習サポート体制を検討してほしい。リモート対応や動画配信などの手法で検討できるかと思う。動画配信も、WEB会議システムのアプリの中の録画機能を使用して、パワーポイントを使いながら演習のポイントなどを説明したり、YouTubeの限定公開の手法をとれば、セキュリティ等の問題は少ない。それでも、対策を講じることが難しい場合、断腸の思いで「不参加」の選択をするしかない。

○事務局

- ・サポーターについては、3密を避ける対応を最大限行い、参加していただきたい。しかし、無理をさせることもできないと思っている。状況を見ながらお願いしていきたい。
- ・サポーターは、これまで1グループに1名入っていたが、初任者研修が年1回の開催となる今年度は、必要なサポーターの数が100名近くになる。この人数を集めることはかなり厳しいと事務局は考えている。「この日程はサポーターが集められたけど、この日程は集まらなかった」ということのないよう、確実にサポーターに入ってもらえる方法や工夫・人数について、初任者研修チームに相談したい。加えて、今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止を踏まえて、3密にならないよう人数や配置時間等を考えている。御本人の他にも、支援者・介助者、協力いただく事業所も感染防止についてはナーバスになっているところもあるかと思うが、関係各所の御理解も必要と考えている。諸々チーム以外の委員からも、御意見をいただきたい。

【その他】

○藤田委員

- ・現任研修の6月開催が見送られたが、今年度が資格更新最終年度の者については、次年度まで有効期限を延ばすことで対応可能と思う。次年度以降の更新期限をどうするかによって来年度の応募が大きく定員を超えること、また、仮に次年度以降も1年ずらした場合に更新期限の混乱が起きるのではないかと。どのように考えているか。

○佐藤委員

- ・今後研修実施に関する通知を出す際は、研修内容の「このような点に変更されている/強化されている」というポイントを御案内し、次年度への心構えや準備をすることが必要
- ・実施方法の変更のみを通知するのは不親切であり、プラスして情報提供が必要ではないか。受講予定（希望）者にとって不利益な変更にならないよう、丁寧に対応した方がよい。

○事務局

・研修実施の変更によって生じる更新期限の取扱いや、来年度の定員をどうするかについて、関係部署と調整している。混乱ができるだけ起きないように、周知については丁寧に行っていきたい。

○中島委員

・サービス管理責任者等基礎研修の実施について、どのように模索しているのか。

○事務局

・第1回サービス管理責任者等基礎研修について、講義は動画配信、演習は1教室に入る人数とグループ数を減らして行う形を検討している。

決定

検討事項（2）年間研修実施計画については、提案どおりの内容で決定する。

サポーター参加については、従来の1グループに1名が入り、受講者と対面で話し合う形式だけでなく、様々な方法での参加を検討していく。研修実施方法や日程等が変更になった場合は、丁寧に周知を行う。

検討事項（3）検討会年間活動方針及び計画案について	（資料）	5	（提案者）	事務局
----------------------------------	------	---	-------	-----

○年間活動方針案については、初任者研修・現任研修・主任研修に加え、演習指導者養成研修のプログラムを確立することを挙げた。演習指導者養成研修については、昨年度、時間をかけてブラッシュアップさせた内容を形にすることと、初任者研修・現任研修を新プログラムで実施するために、より多くの演習指導者を養成できるようなプログラムの確立が必要と考えた。

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、6月～9月の現任研修開催は見送りとなったが、年度後半の初任者研修の前に現任研修の演習ノート等を完成させたい。

意見

【まとめ役説明会について】

○吉澤委員

・まとめ役募集から、まとめ役説明会までのスケジュールを可視化するとよい。カリキュラム変更に伴い、まとめ役説明会への参加が非常に重要（誰もが初めての経験になるため）であり、早めの周知が必要である。

○中島委員

・まとめ役説明会が非常に重要と思う。FT全員が参加できるような複数の日程がよい。早期の周知が必要である。

○北川委員

・まとめ役説明会が重要。今回においては、FTが基本全員参加ということが必須だと思う。演習指導者養成研修は、来年度の人材育成のことも考えていかなければならない。

○事務局

・まとめ役や演習指導者養成研修の募集の際には、お声掛けした皆様に、日程などもすべてお示ししたい。できるだけ早く進めたい。

【演習指導者養成研修について】

○池田委員

・演習指導者研修の参加者の中には、旧カリキュラムでの現任研修受講者がいる。新しいカリキュラムでの初任者研修の実施を踏まえ、演習指導者養成研修の募集時期・方法を全体で抑えておけるとよい。

○堤委員

・新しいカリキュラムを理解するために「演習指導者養成研修」が非常に重要

○花形委員

・演習指導者養成研修が地域に戻っての実習の準備に役立つ位置にあるのであれば、定員20名以上の申し込みがあった場合、受講枠を上げられるか。周知についても、実習のことが触れられていたら、参加する方（新たなFT協力者）が増えるかもしれない。

○事務局

・演習指導者養成研修の受講者は、初任者研修のまとめ役を担っていただくことが条件になるため、経験のあるまとめ役数との割合も加味し、最終的に受講決定していきたい。教室内に占める演習指導者養成研修受講者のまとめ役が多くなると、進行が厳しくなるのではないかと考えている。

【その他】

○池田委員

・今年度、現任研修チームの企画が一段落した後、他のチームへの合流は考えられるか。

○事務局

- ・事務局としては考えていない。現任研修チームとしての企画は年度の前半で区切りがつくが、後半は初任者研修のまとめ役などに御協力いただきたいのと、初任者研修のプログラムについても、現任研修とのつながりという視点で確認していただく等、御協力やお願いしたいことが引き続いて出てくると思う。しかし、それぞれのチームの作業量などから「チームに合流してほしい」という御意見があれば、お出しいただきたい。

○北川委員

- ・昨年度、国の主任研修を修了した方は、今年度協力していただけるのか。

○事務局

- ・昨年度、国の主任研修を修了された方には、国の主任研修の受講時と4月に、再度の協力のお願いをしております承りいただいている。

○杉田委員

- ・研修検討チームへの協力者への声掛けはいつからするのか。第1回検討会後か。

○事務局

- ・協力者への声掛けは、第1回検討会後（チーム体制確定後）に、事務局から各チームごとに協力者への声掛けをしたい。なお、チームごとのメーリングリストについては、協力者が確定し次第、今年度メンバーのアドレスに切り替えたい。

決定

検討事項（3）検討会年間活動方針及び計画案については、提案どおりの内容で決定する。

検討事項（4）現任研修の新プログラムについて	（資料）	6	（提案者）	現任研修検討チーム
意見				
○杉田委員				
<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修プログラムは、相談支援従事者研修全体の連動性を確認する意味と、現任研修対象者で旧バージョンの初任者研修演習修了者（令和元年度までの初任者研修演習修了者）に情報提供する意味がある。 ・初任者研修を「復習」、「振り返る」、「なぞる」時間が取れるとよい。 ・講義のオリエンテーションに含めると、30分は短いので事前課題で復習する方法もある。 				
○堤委員				
<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修・現任研修の連動性を確認・共有していくために、現任チームの方に何らかの形で各チームに御協力をいただきたい。 				
○吉澤委員				
<ul style="list-style-type: none"> ・新現任研修の講義プログラムは、冒頭での30分のオリエンテーションに加え、最後のスーパービジョンの講義のうち30分は演習オリエンテーションをする予定 ・例えば冒頭でのオリエンテーションは、演習について詳しく触れず、「東京都相談支援従事者等研修の全体像の説明+現任研修の目的と講義の概要」をすることで、初任者研修の目的や概要等に触れることができる。主任研修や専門コース別研修などにつなげることができるのではないかと。 ・現任研修チームは、初任者研修の内容を踏まえること、連続性をもたせることを意識していきたい。 				
○中島委員				
<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修は、初任者研修・主任研修・演習指導者養成研修につながるものなので、現任研修の講義部分は、新カリキュラム初任者研修資料を差し込む方向で確認する。初任者研修チームや主任研修チームの話合いの内容に応じて、現任研修チームメンバーの参加やメーリングリストで講義資料及び演習資料の共有化ができるとよい。 ・現任研修チームは、WEB会議システムを使ってワーキンググループを行ったが、参加や移動時間もなく時間の確保ができたので、初任者研修チームや主任研修チームの話合いをWEB会議で行うと、現任研修チームで可能な者は、オブザーバー又は傍聴者で参加できる。会議に参加するのが厳しい場合、資料（データ）を共有し、お互いの資料作りに差し込みができるのでよい。 				
○北川委員				
<ul style="list-style-type: none"> ・「東京都相談支援従事者等研修の全体像」にあるように、一つ一つの研修とのつながりを大事に考えていただきたい。 				
決定				
検討事項（4）現任研修の新プログラムについては、提案どおりの内容で決定する。				

検討事項（５）演習指導者の名簿公開について	（資料）	なし	（提案者）	事務局
<p>○相談支援従事者研修の演習指導者（F T）で、承諾を得られた方の所属と氏名を、当センターのホームページ上で公開したい。</p> <p>○公開することで、初任者研修・現任研修の実習対応や、主任研修の受講者推薦等の際に、区市町村に活用していただけることを期待している。</p>				
<p>意見</p> <p>○中島委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に主任研修修了者は分かるように公開したほうが良い。 ・F Tも100名程の人数になる。 ・主任研修修了者がキーになることを予想すると、区市町村等の実習担当者が確認できると実習のつながりもスムーズになる。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任相談支援専門員・相談支援専門員の違いも明確にするような公開の方向で調整したい。 				
<p>決定</p> <p>検討事項（５）演習指導者の名簿公開について、提案どおり決定する。</p>				